

令和 6 年度 ひやりはっと集計結果 (令和 6 年 3 月～令和 7 年 2 月)

場所

- ・事業所外 4 件 (車両内 3 件、園庭 1 件)
- ・事業所内 3 件 (△の部屋 1 件、□の部屋 1 件、玄関 1 件)

当該者の年齢

- ・3 歳 1 件
- ・6 歳 1 件
- ・7 歳 1 件
- ・9 歳 1 件
- ・12 歳 1 件

状況

- ・老 朽 化 1 件
- ・破 損 1 件
- ・送 迎 ・ 施 錠 忘 れ 1 件
- ・破 損 1 件
- ・熱 中 症 の 恐 れ 1 件
- ・チャイルドシート固定忘れ 1 件
- ・自 損 事 故 2 件

原因

- ・職員の予測・注意不足
- ・申し送り事項に関する確認不足
- ・設備メンテナンス不足
- ・安全確認不足

総論

事業所外でのひやりはっとの発生が 4 件と、事業所内よりも多く認められた。特に、送迎時の車両内で 3 件発生しており、安全確認の徹底が課題として浮かび上がった。昨年度と比較しても、送迎時に未然に防ぐことが可能であったと考えられる事例が含まれており、送迎業務に関わる職員間での申し送りや確認体制の強化が必要である。今一度、送迎時のダブルチェックの実施や報告の徹底を呼びかけ、リスクの低減を図っていく。また、事業所内におけるひやりはっとでは、設備の老朽化や破損が要因となった事例が 2 件確認された。施設設備の劣化が徐々に進んでいることが考えられ、職員が使用時に注意を払うだけでなく、定期的なメンテナンスや点検を計画的に実施することが重要となる。さらに、職員の予測や注意不足が要因となるケースも複数見られ、特に安全確認の不足が事故につながるリスクを高めることが明らかになった。業務に慣れてくるにしたがって、安全確認が疎かになりやすい傾向があるため、日々の業務の中でリスク意識を持ち続けることが求められる。

今後は、送迎時の確認強化、設備の適切な管理、職員の安全意識の向上を重点課題とし、日常業務の中でリスクの軽減に努める。また、発生した事例を職員間で共有し、具体的な対策を検討することで、より実践的な事故防止策を講じていけるよう心掛ける。